



ひろかわ新編集

山本千聖：活動報告会 in Kibiru

【12月8日(日) 13時～20時】

気がつけば神奈川県から広川町へ移住してきて丸2年半と過ぎ、さらに任期満了となる3年が経とうとしています。地域おこし協力隊としては主に、久泉区のものづくりスペース Kibiru の立ち上げからスタッフとして携わりました。

私はこれまで関東でファッションデザインを勉強してきました。広川町でもさらにファッションへの考え方を深め、自らの仕事の土壌を作れたらと思いつきながら活動してきました。

発見の連続でした。豊かな毎日過ごすことができたのは、広川町の皆さまが温かく迎え入れてくれたお陰です。少し気が早いです、この3年間で関わってくださった皆さま、どうもありがとうございます。

広川町でのこれまでの活動と生活の中で感じてきたこと、考えてきたことを発表する会を開催します。作品展示即売会やトークイベント(18時30分)、懇親会(20時～22時)などを予定しています。ご無沙汰の方も、初めましての方も、ぜひお誘い合わせの上お越しください。詳しいイベント内容は、ひろかわ新編集のホームページや Facebook、Instagram で順次お知らせします。



ひろかわ新編集
ホームページ



ひろかわ新編集
Facebook



ひろかわ新編集
Instagram

山本誠：活動報告会 in Orige

【12月14日(土) 10時～16時】

平成29年1月4日から広川町の地域おこし協力隊に参加し、早くも3年の任期満了を迎えようとしています。当時は「初めて九州の地に参りました」というと皆さんに驚かれましたが、時間が経つのは早いもので、それもつい昨日の出来事のように感じます。

「地域おこし協力隊」という名のもとに活動していましたが、どちらかという私たちの活動は、地域の皆さまに支えられ、「起こして」いただいたものばかりでした。現在は吉常区にあるゲストハウス Orige の運営や、移住相談などを担当しています。活動報告会では、ひろかわ新編集のはじまりから現在、そしてこれからの活動の展望まで、

展示形式でご紹介できればと考えています。ただいま準備中のため、まだ詳細をお伝えすることはできませんが、ひきたてドリップコーヒーやお茶などを用意する予定です。お茶飲み気分が気軽にお越しただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひします。



海外移民の奨励【その3】

～下廣川村書類にみる移民手続き～

移民希望者は、まず福岡県知事に渡航許可願を提出します。渡航許可願には、

私儀、移民取扱人森岡眞ノ募集ニ依リ農業ニ従事ノ為メ、本日ヨリ向フ滿三ヶ年間、布哇国へ出稼仕度候間、渡航ノ儀御許可被成下度、此段奉願候也。

と記されており、この文面に申請者とその関係者、村長の連署を添えて申請します。同時に、移民希望者は出航地の県庁に、旅券下付願を提出します。旅券下付願には、

私儀、今般農業従事ノ為メ向フ滿三ヶ年間、布哇国へ渡航致度候ニ付、海外旅券御下付被成下度、此段奉願候也。

と記されており、渡航許可願と同様、申請者とその関係者が連署し、続けて村長が「前書之通り相違無之候也」と記して署名します。

渡航許可願に出てくる「移民取扱人森岡眞」とは、別資料から、兵庫県相生町（現神戸市）に暮らす人物であることがわかります。

熊本市にも熊本移民合資会社というあつせん業者があり、福島町（現八女市）成産銀行の今村藤吉が八女郡での業務を行っていた、と記録に残っています。この会社は明治31年8月末日までに、八女郡内

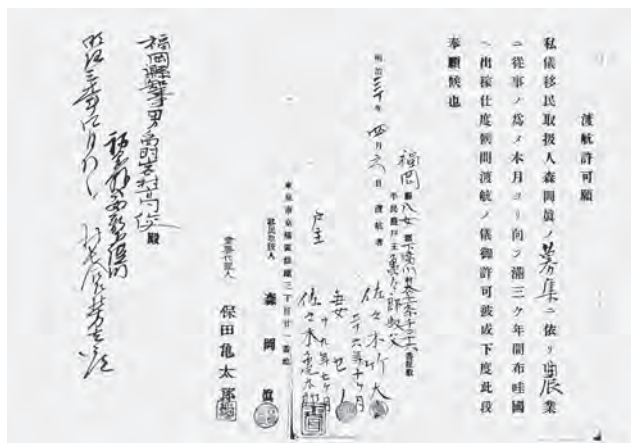
で187人募集していますが、郡役所を介して各町村長の協力を仰いでいることがわかります。

移民希望者はあつせん業者と契約書を交わし、渡航に関する手続きを委任します。しかしその移民手続きは、必ずしもすべて順調だったわけではありません。正規の移民取り扱い人の名前を騙った、白露国出稼ぎ移民の募集もあったようです。このような偽の移民募集に対し、県から郡村へ注意を促す通知も出されています。

移民の実態においても、これまた良いことばかりではな

かったようです。ハワイに到着したものの、手続き上のトラブルで上陸が断られ、日本へ送還されることも少なくありませんでした。

在駐サンフランシスコ日本国領事が外務大臣へ提出した報告書（明治32年8月）にも、「移民の上陸は、検査官の厳重なる検査を経て許される。しかし、移民についても詳しく知らないまま、3年間で多額の賃金を得るためだけにやってくる、上陸できず送還される人もおり、困っている」とあります。



「海外渡航関係留」につづられている渡航許可願

広川町古墳資料館だより

資料館では第28回ひろかわ古墳まつり（11月10日）に合わせ、企画展を行います。中世期から江戸時代に注目されていた石人山古墳、そこへ訪れた著名人に焦点を当て、関係資料を展示します。

注目すべきは、豊臣秀吉と伊能忠敬の関係資料です。豊臣秀吉は1587年、九州平定のため肥後の南関に進軍する際、石人山古墳西の切通しを通り、武装石人や石棺

を見たのではないかと考えられています。日本地図作成で有名な伊能忠敬の測量隊も、1812年10月に古墳を見学した記録が残っています。

企画展のほかにも、まつり当日は資料館で古墳おはじきの絵付け体験を行う予定です（写真）。

